

天國地獄葛飾区編

— 天国地獄葛飾区編 —

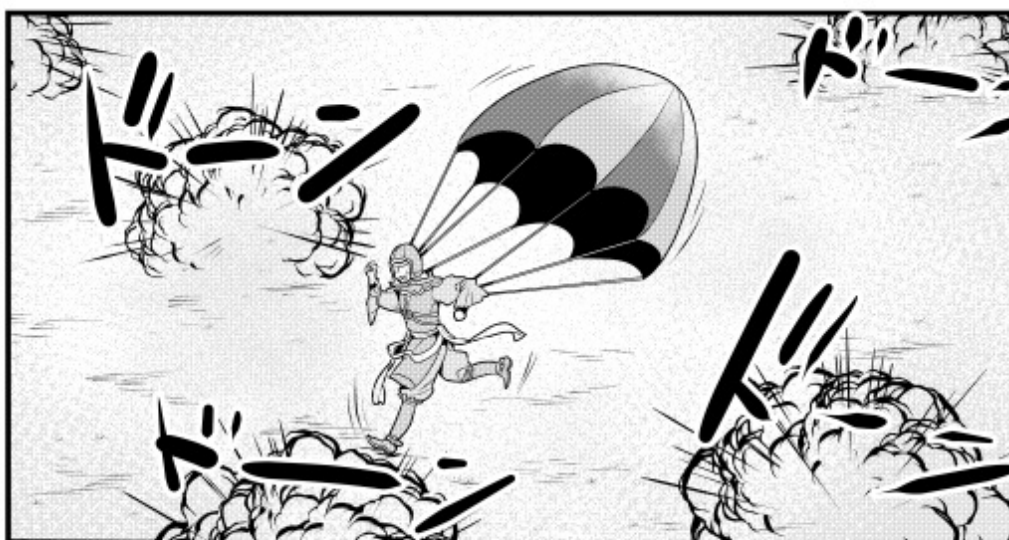
5

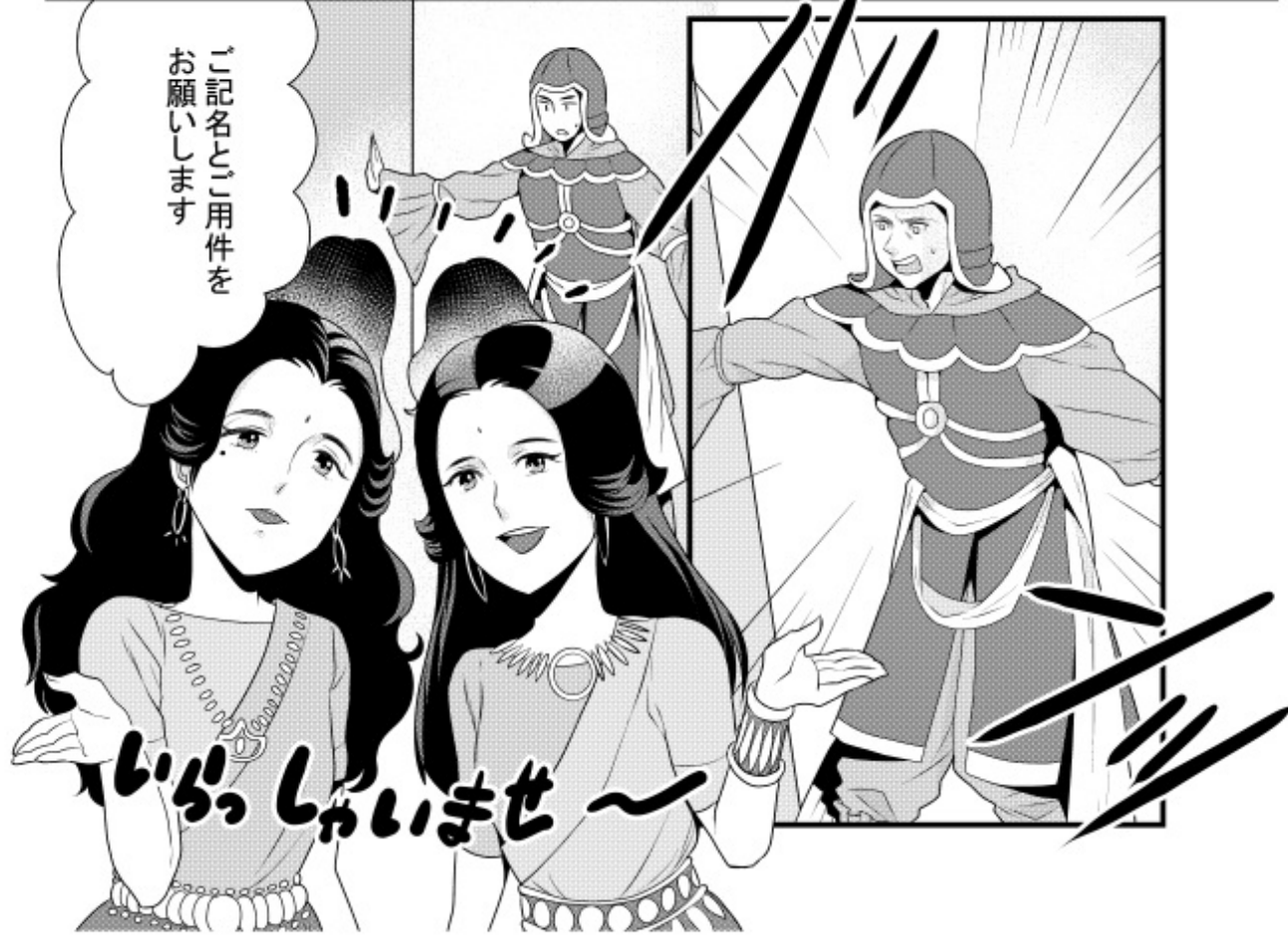
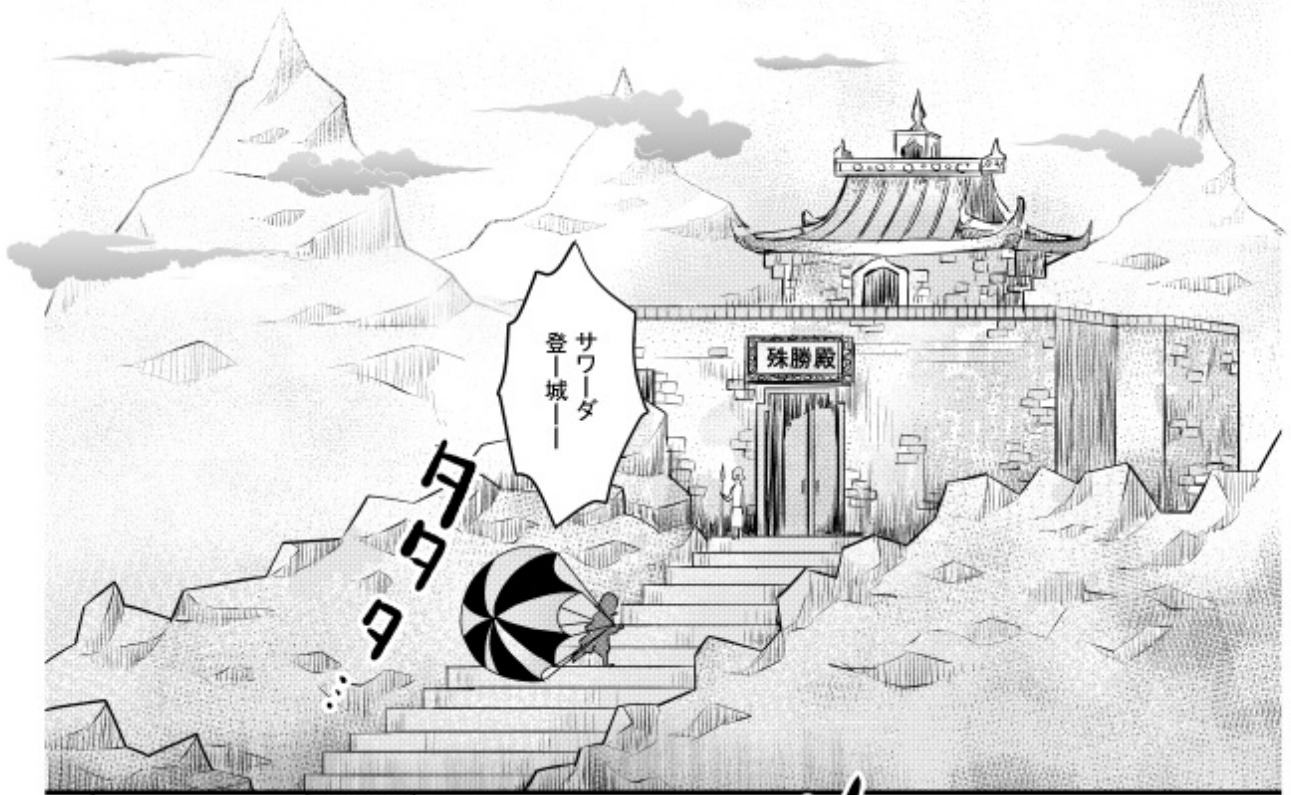


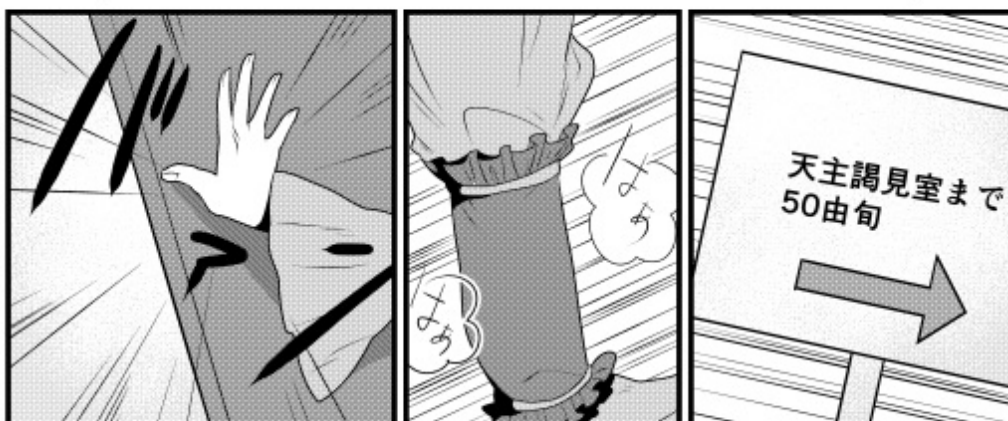
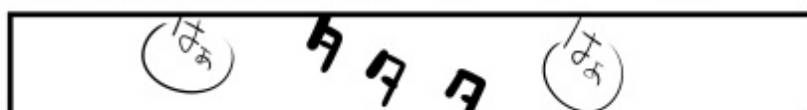
作 平野大明神

絵 ちだりお

第百次阿天戦争 =前編=











チエータカで…
ごさいますね？

あの者を呼べ

は、

やむをえぬ



ああ、
その下派手なやつか

作者の好みで
私にもわけが
わかりません



でも
わざわざ
走って来なくても
よくネ？

最近
色々
通信手段
開発されてるぞ？

演出上「母衣」を描く
必要があったように



「阿天」戦争も
一〇〇次にもなると
大変じゃのう

はっ

ぼん、
そもそもの発端が
阿天だったの



カッ
チャ

釈放だ

チエータカ

釈放…？

ふう
まだ刑期はたっぷり
残ってるはずだが



お察しの通りっ

堀の外が騒がしいぜ？
釈放事由はアレだろ？

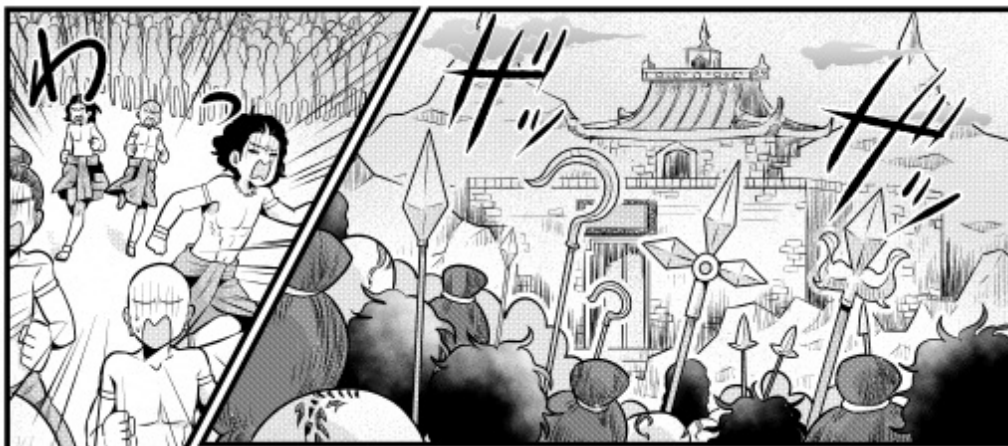


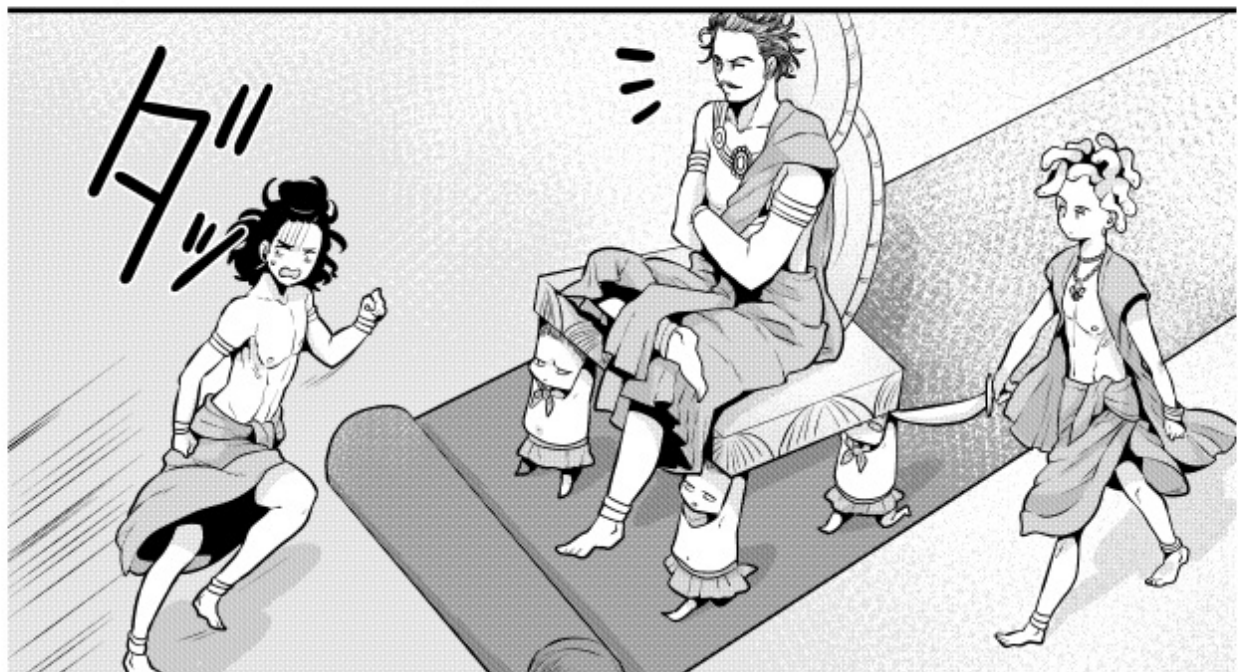
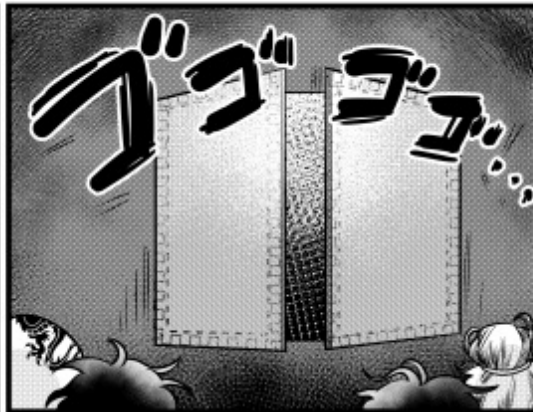
鬼に金棒
チエータカ様には
金剛棒っ…

じゃ、これ
領置金と

あとこれな

また
ひと集れたらいいな







つづく

この漫画の解説

◇1ページ

田村信先生にインスパイアされて始まりました。

伝令天人サワーダが走っております。

実際には天人は汗かくことは（めったには）ないし、そもそも爆弾なんてのもないでしょうね（たぶん）。そんな下品なもの人間くらいしか思いつきません。

でも雷（電撃）はあるようです。アナクロな武器とかも、たくさんあります。

◇2ページ

天にはいくつものランクがありますがここは下から2番目の「三十三天」。

真ん中に帝釈天がお住まいです。住居の名は殊勝殿。

受付のウディターは「日の出」、チャンダーは「月」の意味です（が、なにぶんパーリ語のド初心者なもので間違いかも。得意な方は教えてください）。

なお サワーダは「まぐあい」。

50由旬の由旬って？「ゆじゅん」と呼んで古代インドの長さの単位のヨージャナのこと。だいたい7km～15kmの範囲とっていただければ。

三十三天は地上から8万由旬の高さにあるんだそうです（ひょえー）。

帝釈天をサッカと呼んでいますが、それはパーリ語でサンスクリット語ではシャクラですか。その"シャク"の音を使って天帝・シャク→天帝釈→帝釈天。

◇4ページ

ヴァルナ、イシャーナ、パジャーパティは実在する神々です。旗先経を読もう！

◇5ページ

阿修羅と帝釈天との戦いは世界中の神話になんらかの形でプロットされていると思います。ここでは嫁取り騒動が発端。

◇6ページ

制多迦童子（せいたかどうじ）でググってごらん。

◇8ページ

ヴェーパチッティ（毘摩質多羅-びましったら）はこの漫画では四人いる阿修羅王の一人です。よく言われますが別に手がたくさん生えているわけではないです。戦いにくい。

でいづいな・こめでいあ
-天国地獄葛飾区編-

<http://p.booklog.jp/book/118992>

著者：平野大明神 ちだりお

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/punarvasu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/118992>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト